

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

静岡県沼津市

○学校名

沼津市立第二小学校

○学校のURL

<http://www.numazu-szo.ed.jp/daini-e/>

2. 学校紹介

○学級数

・10

○児童生徒数

・1年38人 2年36人 3年40人 4年39人 5年33人 6年49人

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

・教育目標

「豊かな心を持ち、本気で考え、力いっぱい運動する子」

・人権目標

人権を尊重する児童の育成
明るい挨拶 ていねいな言葉遣い

○人権教育にかかる取組の全体概要

・人権教育全体計画による

3. 特色ある実践事例の内容

(1) 取組のねらい

校区や児童の実態から、児童の規範意識を高め、心豊かな人間関係を築ける子を目指すために言葉遣いに着目し、「気持ちのよいあいさつやていねいな言葉遣い」をテーマに取り組んでいる。また、この取組は思いやりの心を育む人権教育にもつながることを考え、さらに深める活動として、授業参観日における一斉道徳の実施及び児童会の活動を通して実践することとした。

(2) 取組を始めたきっかけ

本校は、男子139名、女子96名、計235名の10クラスである。経済的基盤がしっかりしており、家庭教育に熱心で協力的な保護者が多いので、落ち着いた生活を

送っている児童がほとんどである。一方で、基本的な躰を十分に身につけていない児童もあり、それなりのトラブルがないとは言えない。何か問題が起きたときには、一般的な規範意識が通じない保護者もあり対応に苦慮する場合がある。

学校教育目標は、「豊かな心を持ち、本気で考え、力いっぱい運動する子」とし、その育成をめざし、22年度から2年間、「あいさつ」・「廊下歩行」・「黙働清掃」を生活目標の三本柱として掲げて取り組んできた。また、24年度からは、「あいさつ」の項目に「ていねいな言葉遣い」を加え、生徒指導部、特別活動推進部（児童会活動）、学習部がタイアップした取組を行い、成果を上げてきている。一方で、児童の実態において、「学校外や家庭内であいさつがきちんとできていない」「言葉遣いがよくない」などの課題があるため、今年度も引き続き「気持ちのよいあいさつやていねいな言葉遣い」を重点とした取組を実践している。それをさらに深めるために取り組んだ。

(3) 取組の内容

ア 授業参観日における一斉道徳の実施

ていねいな言葉遣いについての、子どもや保護者の意識をさらに高めようと考え、担当者が年度当初の職員会議で提案し、協議した上で、共通理解を図り実践した。授業後は、児童の感想や今後の目標を1F中央廊下の西側全面に掲示した。また、担任に授業後の感想や今後の授業の生かし方のアイデアを募り、この取組についての評価も行った。他には、児童会主導で、どんな言葉が出たかを放送で全校児童に知らせた。さらには、児童会で次に何かできることはないかを考えた。



一斉道徳の授業展開

以下の様な授業の展開を基本に、学年児童の発達段階に応じて行った。

流れ	内容
導入	意図：汚い言葉を使うと心と体に悪く、嬉しい言葉を使うと心と体によいことを知らせる。 話の難易度は、発達段階に応じて工夫する。
主発問 補助発問	意図：自分のこととして嬉しい言葉とは何かを考える。 意図：自分の考えを発言したり、友だちの話を聞いたりして、自分の考えを深める。
まとめ	意図：自己を振り返ったり、今後の生活の目標を立てたりすることにより、嬉しい言葉に対する認識を深める。

授業後の児童の言葉（全クラス）を掲示



学校だより・児童会だよりでの保護者への啓発

イ 児童会活動の取組

今年度の学校重点目標は、「明るいいいさつ、ていねいな言葉遣い」である。その具現化のために、児童会では以下のスローガンを掲げ、各指導部と連携しながら活動を行った。

児童会スローガン 合い言葉「めいきょうのこ」

めいっぱいそうじをしよう きょう力しようボランティア

のびのび遊ぼう ころをこめてあいさつしよう

- ・一斉道徳でできた掲示物から、「言われてうれしい言葉ランキング」を集計した。また、その集計結果や一斉道徳の様子を児童会だよりとして、全家庭に配布した。
- ・ころをこめてあいさつしよう ～あいさつ運動～
学校重点目標「明るいいいさつ」の具現化のために、「明強門」を作成した。話合いで、この門を正門に置き、くぐる時にはあいさつをしようとのアイデアから具体化した。この活動を児童会の常時活動とした。門の作成に手間取ったり、運び出しに困ったりしたが子どもたちは頑張って活動した。あいさつへの意識は、年々高まってきていると感じられるので、地道ではあるが活動を続けている。
- ・のびのび遊ぼう ～午後1時だよ！全員集合！！（全校遊び）～
全校の児童が仲良くなるために、全校遊びを企画した。各クラスから遊びのアイデアを募り、今回は「全校じゃんけん列車」を行った。みんなで遊ぶ楽しさを感じている子が多かった。
- ・温かい人間関係づくりのために、異学年とのふれあい活動を実施した。内容は共同の遊び、集会、音楽、清掃、読み聞かせなどである。今年度は新たに給食を共にする活動を取り入れた。給食は、比較的長い時間ペアの子と自然と隣合わせることになり、温かい人間関係づくりの一助となった。

・「笑顔100%大作戦」～いじめのない学校～

「いじめのない学校にするために、わたしたちにできることはなにか？」を議題として、各クラスで学級会を開いてもらうように提案をし、各クラスからのアイデアを集約し、具現化するために活動を行っている。

4. 実施による効果

- ① 学校で一斉に道徳の授業を行なったことで、児童一人一人が同時期に言葉遣いを意識することができた。
- ② 全児童の「言われてうれしい言葉」や「授業の感想」を一カ所に集めて掲示したことで、日常的に『よい言葉』を目標にする環境が整った。
- ③ 全クラス・全児童が同じ実践を行なったことで、担任だけでなく全職員による言葉遣いの指導が可能となった。職員の意識も向上した。
- ④ 学校公開日に実施したことで、保護者や地域に対して、『よい言葉遣い』をする本校の指導方針を示すとともに、学校だけでなく、家庭や地域においても指導していく基盤づくりにつながった。

5. 実践事例についての評価

一斉道徳を行ったことで、言葉遣いを意識し取り組むことができ、子どもも教員も学校評価で、「言葉遣い」についての評価が昨年度よりも向上した。

児童

	25年度	24年度
友達や先生に、進んであいさつをしていますか。(目標値 95%)	92.3%	89.4%
ていねいな言葉遣いをしていますか。(目標値 80%)	86.8%	78.7%

教員

	25年度	24年度
子どもは、挨拶が進んでできるようになってきたと思いますか。	81.8%	75.0%
子どもは、ていねいな言葉遣いをしようとしていると思いますか。	87.5%	81.2%

保護者においては、全校で丁寧な言葉遣いを推進し、それを実行できるようにしていこうとする試みについて、とてもよいと感じていただけたようだった。この授業をきっかけに、保護者も、「ふわふわ言葉」、「ちくちく言葉」という言葉を覚えてもらい、家でも言葉遣いについて意識していきたいと話してくれた。以下に、全学年保護者より寄せられた感想の代表的なものを掲げる。

- ・自分自身が授業の様子を参観していたことで、学習内容と子どもの表れが一致した。家庭でも意識したい。
- ・懇談会では、「一斉に全クラスで同じ授業をすることはよいことだ。」「家庭でも言葉遣いについて気をつけていきたい。」という感想が多くあがった。

- ・家庭でも言葉遣いが乱暴なことがあるので気になっていた。もっと家庭でも言葉遣いに注意していきたい。
- ・家庭での言葉遣いが悪いので、注意していきたい。(が、反抗期なのかなかなか聴いてくれない。)自分自身の言葉遣いを振り返るきっかけになりよいと思う。あとは、実践につなげてほしい。
- ・学校がきっかけとなって、家庭や地域に丁寧な言葉遣いを広げようとする試みは、大変素晴らしい。情報発信をして、輪を広げてもらいたい。(PTA 会長)
- ・子どもたちの健やかな心身の成長や、丁寧な言葉遣いといった指導は、学校だけではなく、家庭、地域も巻き込みながら一緒になって子どもたちに伝え続けていくことが大切だと感じた。

課題としては、情報発信の仕方について一部の保護者から御指摘をいただいた。今回は学校便りや懇談会、PTA の会合等で発信をしたが、試みがよいだけに、より効果的な発信をお願いしたいとの御意見をいただいた。いろいろな機会を捉えて周知が図れるよう発信していきたいと感じた

1年間の約8割を学校外で過ごす児童にとって、言葉遣いの指導は学校だけでは限界がある。家庭や地域の協力を得ながら、全職員が一丸となって日々の指導を続け、児童の成長を見守っていきたい。

最後に、今回は、言葉に着目し、豊かな人間関係づくりを構築できるように取り組んだ。この取組を通して、普段何気なく使っている言葉だが、改めて言葉の持つ重要性を感じた。意識して使うことによって、児童の自尊感情を育むことや豊かな人間関係を築くことになり、さらには他者への思いやりの心を育てる人権尊重の意識にもつながる。この取組は、まだ始まったばかりであるが、第一歩として価値あるものとする。真の成果は今後の児童の様子からみとるべきものである。そのために、道徳の授業を要とした学校教育活動全体を通じた指導を今後も行っていきたい。